



成長とやりがい

はじめまして！非常勤講師として今福教室に勤務しております、有馬佑月です。春に高津高校を卒業し、同志社大学の1回生になりました。アップルクラス(現在のパスカルキッズ)、小学部、中学部と、カイチには長い間お世話になりました。そして今度は生徒としてではなく、教える立場である先生としてカイチに関わることができて大変嬉しく思います。

さて今回は、カイチに勤務し始めてからのちょっとした出来事についてお話しします。3月に高校を卒業してすぐに働き始めて、早いもので4、5ヶ月ほど経ちました。高校時代はバイトを経験しておらず、働き始めは自分の作業に精一杯でまわりをきちんと見られなかったり、生徒に伝えたいことがうまく伝わらない、またわかりやすく伝えられなかったりととても不安に感じる事が多かったですが(今もときどき不安ですが笑)。自分の業務をこなしながら、全

体の流れを考えるとがいかに難しいか。頭ではわかっていても人に教えるとなるとこんなに難しいのか。発見が多かったです。先輩方や社員の方に優しくご指導いただき、働き始めから今まで安心して動められ、日々学んで成長することができています。いつも本当にありがとうございます。

ある日、中学生の1学期中間テストが順次始まっている頃でした。3年生の自習監督中に生徒のみなさんの勉強の様子を見てみると、大半の子が理科を勉強していました。



▲有馬先生と中1M君。ハイチーズ！

どうやら理科が難しい単元だったらしく、多くの生徒が頭を悩ませていました。自習が終わった後に、ある生徒さんから理科の質問を受けました。なぜこうなる？どうやって覚えたらよい？といった問いかけに、自分が中学生のころはこう覚えていたな、など自分の経験を交えつつじっくり指導することができました。後日、生徒がわたしの元ヘストの出来を報告しにきてくれました。「理科の点数、先生のおかげでめちゃくちゃ良かったです！ありがとうございます。これからもお願いします。」と言ってきて、わたしの指導が理解の助けになれたのだな、と実感でき、やりがいを感じましたし、自分に自信を持てるようになりました。

最後に、生徒のみなさんへ。普段の勉強、受験勉強で行き詰まるのがこれから先、多くあると思います。どんな些細なことでも、また勉強以外のことでもいつでも相談してくださいね。まだまだ先生として未熟ではありますが、みなさんの力になれるよう頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。



高木のちょっとイイ話

TEACHER'S VOICE

高木 直也 (諸口教室)

0を1に!諸口教室の新しい挑戦

開智総合学院に入社して今年で丸10年が経ちました。入社して5年目に諸口教室の教室長になりました。そこから諸口教室長として5年。ありがたいことに年々通塾者も増え昨年、生徒数は400名を超えました。保護者、生徒の皆さんのご理解とご支援に支えられた5年でした。

そして迎えた2023年、諸口に予備校をということでカイチ予備校二号店であるカイチ予備校諸口校を今年の4月に開校しました。これまでの私の仕事は既存の教室を発展させていくことに尽力していましたが、新規教場開校というのは、0を1にする仕事であり、今までの自分のキャリアにはないことでした。まして、私の主戦場は高校入試。そんな私が教室長として、なおかつ諸口教室長との二刀流。異例尽くしの船出となりました。4月に開校したものの、当初は1日待っても誰もこない。新規教室としてのセールスポイントもない。どうやったら地域に必要とされる予備校になれるか、頭を相当悩ませました。0を1にする難しさを改めて痛感しました。

そんな中活路を見出してくれたのが、非常勤講師として勤務している片山先生でした。片山先生は現役時代大手予備校を掛け持ちし、吸収したノウハウを書き出してくれました。それをもとに話し合い、集団指導と非常勤講師による個別サポートという諸口校の特色が生まれました。さらに今年は今までで最も多い数の卒業生が非常勤講

師として諸口に帰ってきてくれました。卒業生達が非常勤講師として脇を固め、集団授業講師には英語指導に抜群の安定感を誇る栞原先生、数学には大学入試を知り尽くした對島先生が担当し、自習設備も、オーダーマイドのブース、Wi-Fiを完備し、指導環境もパッチリ整いました。

最初二名からスタートした諸口校、最初はインスタグラムからはじめました。テスト前には9時間自習を行い、外部生もどんどん招待。とにかく人の流れを作りたい。その一心でこの1学期は一丸となってやってきました。7月現在生徒数は二桁になり、ほんの少しですが活気も出てきました。

カイチ予備校諸口校を運営するにあたって特に意識していることが一つあります。それは「予備校でカイチをやる」ということです。「予備校でカイチ?また高木がわけのわからんことを」という声が聞こえてきそうですが、私の考えるカイチ像とは、



成績が高い低い、志望校のレベルに関係なく、勉強がわからん生徒にはとことん付き合う!です。

この10年ひたすらがむしゃらにここまでやってきました。今福では塾長と生徒の取り合いでケンカしていたのも今ではいい思い出です。予備校も非常勤とがむしゃらにやれる環境を作っていきます。勉強でお困りの生徒はぜひ予備校までお越しください!全力で指導します!

この夏、個別指導クラスもスタートし、高2生の受け入れも始まりました。(個別クラスのみ)地域に必要とされる存在へ、中学から高校に進学した後も安心して通学できる環境づくりを目指して、これからもいろんなことを諸口予備校から発信していきたいと思ひます。是非一度、カイチ予備校諸口校を覗きにきてください!



▲珠算低学年クラス。みんなとにかくかわいい!

珠算の幼稚園・1年生指導は必ず最初に、数認知力を高める「かにさんドリル」、5分で100問に挑戦する「計算ドリル」、息抜きのゲーム、国語・算数・指先トレーニングが入った練習帳・そろばんの順で進みます。毎回、順序は同じです。このように毎回の同じ授業展開にしておくことで、子供達は次に何をするかを予測が立つようになります。

次に、準備やお片づけができたなら手を頭の上に置くというルールを決めています。読んで字のごとく、子供達は準備やお片づけができると手を頭の上に置き、私は早くできた子の順に「1番」「2番」と番号を言いながら、ご褒美のカラーカードを渡します。早く準備ができた生徒達は最後の生徒を手を頭の上に置いたまま待たなければなりません。ただ、これだけのことで、子供達は早く準備してご褒美カードが欲しいのと、みんなを待たせるのが嫌で、機敏に準備をしようと心がけるようになります。

また、毎回、同じ順序で授業を展開しますので、子供達は自然と「次は練習帳の準備だな、次はそろばんだな、もうお片づけだな」と先を予測して行動するようになります。この先を考えて動く力と準備する力が「自立」に繋がると私は考えています。

仕事の世界では「段取り8割、仕事2割」と言われますが、事前に準備する姿勢は、仕事に対する主体性が問われ、その姿勢は自立から生まれます。子供達も同じで、毎日の授業の中で先読みができ、準備やお片づけなどが自分で機敏にできるようになると「自立」(自分のことを自分でできること)への手助けを得て、学習姿勢が変わり、数認知が伸び計算が速

元気の源は「自立」と「挑戦」

毎日暑い日が続きますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。教室は夏期講習の真最中!朝から夜中まで大忙しですが、やはり夏の子供達はとてもパワフル。少しばて気味の先生達も、生徒達に元気をもらいながら日々頑張っています。

今回は、私が担当している今福教室の珠算の様子や、トーキングキッズサマーキャンプで垣間見た子供達の様子と、それらを通して改めて気づいたことについてお伝えしたいと思います。

今福の珠算部のみんなはとにかく元気がいい。言いが正しいかどうかはわかりませんが、やる時はとにかく鬼のように集中してやる。くだらない話やそろばんを使ったゲームの時はとにかく羽目を外して盛り上がる、令和と思えない昭和感があります。



▲珠算の低学年クラスの一コマ「準備ができたら手は頭の上!」

今年もたくさんの年長さんや1年生が入会してくれました。もちろん最初は計算ができない子もいますし、授業の準備や片付けにも時間がかかってしまう子もいます。でも、入会して2、3週間してくと動作が機敏になり、みんなしっかり授業についてくるようになります。これはあくまで私の経験ですが、準備やお片づけが素早くできるようになると、不思議と学力も伸びてきます。

準備とお片づけを機敏にさせるポイントは「次が予測できること」と「ゲーム感覚でルールがあること」です。

くなったり、文字が丁寧になったり、そろばんの指を間違えなくなるなど、学力面にも影響していきます。

低学年の子供達の指導を通して、学習面も大切ですが、その一歩前の「自立」、挨拶なども含めて自分のことを自分でさせていくことがいかに大切かを改めて気づかせてもらえました。

7月28日・29日に、トーキングキッズのイングリッシュキャンプに行ってきました。私は運転手としてこのキャンプに参加したのですが、見送り時の子供達の雰囲気と迎えに行った時の子供達の雰囲気が大きく違うのに驚きました。

何が違うかと言うと「元気」です。もう、表情が違います。

同伴した先生達はへろへろだったと思いますが、きっとみんなでたくさん体験して、そこからたくさんの感情や思いを得て、もう「ナ・ツー」と顔に書くような生気に溢れる顔になったのだと思います。

今の子供達、いや私達大人もそうですが、どこか「元気」がありません。先日も若い人と話していると「年々、自分は元気を失っている」と話していたのが胸に残りました。

ネットやSNSの影響で、日々様々な情報に触れ、たくさんのお話を聞けるようになったのだけれども、圧倒的に体験とそれに伴う感情が足りない気がします。また、自分が何かをしようと考えた時、YouTubeで誰かが話した何かが邪魔をして「しんどいだけでムダ」「意味がない」と勝手に心のブレーキがかかって行動できない。できない理由は知っているけど、やった時の感動を知らない。そんな状況が、みんなの元気を奪っているのかもしれない。

でも、キャンプの子供達は親元を離れて、自然の中で、しかも、キッチンと布団をたたまなければなり直し、食器もきちんと洗えるまで洗い直し、晩御飯は自分達で作らなければ食べられないという環境の中で、行動せざるを得なかった。とにかく動いて、動いて、動いた分、心も動いて、元気が噴き出してきたのだと思います。

「何かをやってみる、挑戦してみる」ことの大切さ。これも、この夏、子供達と接して改めて感じたことです。

コロナも終息し、いよいよカイチでも様々なイベントができるようになりました。時には教室を飛び出して、子供達の「自立」を目指して、みんなで何かをやってみる。それは、子供達の成長においても、また、頭でっかちになりがちな、私達、先生の成長にとっても必要なことだと強く感じました。



高木 秀章(塾長)



▲TKキャンプでは英語の勉強とともに「自立」も学びます



- 学習部は7月21日(金)～8月24日(木)が夏期講習期間となり、通常授業と指導曜日・時間が異なります。詳しくは夏期講習のお知らせに記載しております
- 8月10日(木)～8月16日(水)は休講日とさせていただきます。
- 8月19日(土)は各教室でピンゴ大会を実施します。皆さん夏の思い出に、素敵な賞品をゲットしてください。
- 模擬テストを小学部 8月21日(月)、中1・2 8月23日(水)、中3 8月26日(土)に実施します。夏期講習の成果を試すテストです。みんな頑張ろう!

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート



万緑会の夏期講習 子供達の元気に負けず頑張ってます!

伊藤 喜章 (万緑会)

万緑会で教室長を拝命してから5年が経とうとしています。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、あらた



▲行動観察のルール説明をする山内先生

めて、教室をご紹介します。万緑会は年少～年長までの生徒が通う小学受験クラスと年中～小3対象の能力開発クラスの2クラスがあります。両クラスでは只今夏期講習の最中です。今回はその様子を少しお伝えしたいと思います。

まず、小学受験クラスですが、私立小学校の受験が近づいており、主な小学校では9月に試験日を迎えます。よって現在は年長の私立受験生にとって、間際の直前対策、真最中です。今、小学受験クラスでは何に重点を置いているかという「指示が聞ける」ということです。



▲ルールは理解できたかな?指示に従いゲームを行う子供達

幼い子供達が、すごろくや色ならべなどのゲームのルール説明を覚えて先生が1回だけしか言わず、そのルールを理解しその通り対応できているか。場合によっては他の子供と協調しながら対応できるか。この理解力と対応力、協調性や機転が小学受験で問われる力の根幹です。

小学校受験の試験は数や文字、常識などを問う筆記問題や、様々な質問にきちんとした言葉遣いで適切に答えられるかを問う面接、冒頭で紹介したような試験官の指示に対してどのように行動するかを試される行動観察などがあります。

特に行動観察では、指示を聞いて理解し、その指示に適切に対応し、なおかつ、お友達よりも遅れても動じず、早くできればお友達を静かに待たなければなりません。このような力はなかなか一朝一夕にテクニックとして身に付くものではありません。万緑会では、家庭での生活面でのポイントもアドバイスしながら受験対策を行っています。受験指導経験が豊富な山内先生や徳永先生ならではの経験が豊富です。



▲新任の徳永先生もがんばってます!



▲能力開発クラスのコマ「ハイチーズ」

私の担当する能力開発クラスでは、夏期講習期間中に本を1冊読んで感想文を書いてもらいます。今年のテーマは「女性の伝記」です。年長・小1が「ナイチンゲール」、小2が「荻野吟子」、小3が「津田梅子」、小4が「アンネフランク」を課題図書としています。なるべくイメージを膨らませてほしいので、文字だけの本を読んでもらうようにしています。

「明治4年(西暦1871年)はめちやめちや昔やな～」とか「お父さん、お母さんも全然生きてへんわ」とかいうので、「おじいちゃんおばあちゃんも生きてへんで!」と言うとびっくりして、「そんなに昔なん!?」と言いながら楽しそうに読んでくれています。実際に生きて様々な物事に挑戦した女性を読んでみてどう感じたか。読書感想文も書いてもらうので、今

から読むのが楽しみです。

能力開発算数指導では、特に体感させることに重きを置いて指導しています。ご存じの通り、数概念や単位の箇所では、お金タイルやL・dLマス、メジャーなどを駆使して、感覚として数構造を理解してもらうことを意識しています



▲授業の最後は、図形や空間、数などを使ったゲームをします

が、文章題などお金の教具を使ってリアルに感じてもらいます。

例えば小学校1年生が「1万円を持っていきまし。2,400円のTシャツと6,700円のセーターを買おうとおつりはいくらですか」といった問題を実施する場合には、お金の教具を渡しながら「間違えたら～君のお店は、つぶれてしまうので。しっかり考えて!」とシチュエーションも話してあげると、「えええ、つぶれるのは嫌や～」といいながら、現実に引き寄せながら文章題を考えてくれます。学習を兼ねたごっこ遊びのようですが、勉強が暮らしとくっついていることを知ると、子供達の学習への理解は変わります。

万緑会の名前の由来は中村草田男の「万緑の中や吾子の歯生え初むる」と言う俳句からきています。初夏の植物の成長と子供の成長の逞しさを、植物の緑と子供の歯の白の色彩の対比で鮮やかに表現した句ですが、夏になる度に私も子供達のエネルギーをもらっています。夏休みも残り1カ月弱。夏の思い出も思いっきり作りながら、先生達とお勉強も頑張っていきたいと思います。

Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



Camp Victory 2023!

Talking Kids Katrina Fujikawa

It is getting hot these days as the summer progresses and for Kaichi, this only means one thing: It is Talking Kids summer camp once again. As we do this camp year by year, we always get new experiences, learning, fun, and excitement from the kids. This year is also one-of-a-kind camp that kids will always remember throughout their lives and as one of their teachers, I am so happy to share with you all the activities and events that we have done during the camp.

Early in the morning as we picked up the kids in Kyobashi station, I already felt the excitement coming from them. You can hear them talking to one another about the camp and what are the things they were expecting to do. The energy grew bigger as they saw the venue situated on the mountains surrounded by beautiful nature. This year's venue is in Sakai City here in Osaka.

Upon arrival, the kids get off the cars and started to put their bags in their respective rooms. The orientation took place after. We told the kids the flow of the program and the things that they need to do and not do.

A delicious lunch followed. We were so happy eating together with our principal, Mr. Hideki Takagi as well as with his wife, Mrs. Nahoko Takagi. When everyone finished their meal, we proceed with the first activity of the day - making a craft. The kids started to get busy polishing their woods and spoons and they tried their best to make the best wooden spoon ever! You can see here how creative and resourceful these kids were.



For dinner, we let the kids help in preparing their food and asked them to partake in the cooking. Since we are in the mountains, the cooking is also different as we used fire-lit wood. For me, this is also one of the good learning that the kids saw in this camp. While cooking and waiting for the food, a bubble play game was facilitated. The kids challenged each other and made the biggest and longest bubble.

The night came and one of the highlights of the day was done - the bonfire. Since it was dark, the fire that came out of the piled-up woods served as our light for the night. Some kids said that it was the best moment of the camp as it was their first time doing that kind of fun activity. We sang songs, danced, and even told a lot of stories to each other while surrounding the fire. To make it more exciting, we tried to test the braveness of the kids. Mr. Chikahisa and Mr. Silver dressed up as ghosts and scared the kids. The funny thing was, the kids were not afraid at all and on the opposite, they were the ones who chased the teachers instead of them being chased and captured.

The time came for us to end the day and everyone went back to their rooms to prepare for their bath and sleep. Up to the end, I can still hear the kids talking and laughing about that day's experience and you can sense that they enjoyed it and that they were having fun.

The next day, which is also the last day, we had a morning dance exercise (Zumba Dance) before eating breakfast. Some were still sleepy but when they start to hear the music, energy started to flow inside their bodies and they started moving and dancing. It was such a joy watching them enjoy dancing. I can see they were also tired after doing a lot of moving so they were able to finish their breakfast well. We then proceeded to the scheduled activities which include smashing watermelon, a semi-obstacle game, riding on a zipline, playing with the wooden slide, badminton, etc. Due to time constraints, we were not able to do some of the activities but even though, I can tell that the kids already had enough fun and that they were all satisfied and happy. We finished the day with the awarding of winners before we headed back home.

Probably, some of you might be asking what is the essence or importance of this camp. I would say that it is of great importance and big significance in the overall growth and development of these kids that they were able to attend this kind of camp. Not only that they need to speak English all day because this is an English camp, but seeing the kids explore and challenge themselves on those two days made them realize the potentials that they can do if they only allow themselves to be encouraged and pushed. Sometimes, all we need is this kind of activity for us to discover new things about ourselves and this is what made this camp a successful one. All the kids were able to learn new things about themselves and they were also able to realize deeply the usage and importance of the English language.

When you are at a camp, you are encouraged to try and do new things which I believed boosted the confidence of the kids. Some might refuse at first but eventually when they see their friends doing it, then they try to challenge themselves and do it as well. Also, the spirit of teamwork and camaraderie were established and the kids learned how to depend not only on their strength and knowledge but also to seek help and support from others.

All the kids were also able to display their leadership skills especially when trying to help their friends and directing each one in their teams. They also learned to respect not only their teachers but their fellow friends as well, especially when acknowledging all participant's weaknesses and strengths. On the other hand, as a teacher, my respect and gratitude for the kids grew bigger as well. I was able to see how they reacted, learned, and handled properly every situation in the camp and these made me conclude that this is one of the best and most successful camps ever. In the end, not only did they enjoy this camp but this will serve as one of the best memories that they can cherish for the rest of their life. As their teacher, I am happy that I was able to be a part of their wonderful experience.

Like this year, I hope many kids will be encouraged again to join the camp next year. Hand in hand, let us make this world a better place not only by teaching the English language but also by developing every child's character through this amazing kind of camp.

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育



Camp Victory 2023 !

カトリーナ・藤川 (トーキングキッズ)

夏が近づくと暑くなってきました。待ちに待ったカイチトーキングキッズのサマーキャンプの季節がやってきました。例年のこのキャンプでは私達が子供達から新しい経験や学び、楽しみ、そして興奮をもらっています。今年もまた子供達にとっては生涯忘れられない唯一無二のキャンプになったと思います。この楽しかった思い出を皆さんにお伝えできるととても嬉しく思います。

当日の早朝、京橋駅での待ち合わせです。子供達の興奮が伝わってきました。このキャンプへのみんなの期待の声がかえってきました。美しい自然に囲まれた山の上の施設を見て、みんなの期待はさらに大きくなったように感じました。今年のキャンプ地は大阪の貝塚市です。

到着すると、みんな車から降り、それぞれの部屋に荷物を運びました。その後、オリエンテーションを行いました。そこでこれからの予定や、やなければならないこと、やってはいけないことを伝えました。

それから昼食を高木塾長夫妻とみんなでおいしく食べ、幸せな時間を過ごしました。食事を終えて、その日最初のアクティビティであるクラフト作りに取り掛かりました。子供達はみんな最高の木のスプーンを作るために、一生懸命夢中で磨いていました。子供達がいかに創造的に工夫していたかわかりただけでしょう。



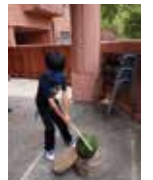
夕食はみんなに食事の準備を手伝ってもらい、料理を作るのにも参加してもらいました。山の中でのキャンプなので、いつもの夕食とは違い薪を使っての調理です。こういったキャンプでの経験は子供達にとって良い学びの一つだと思います。料理が出来上がるまで、大きなシャボン玉ゲームで遊びました。



夜になり、その日のハイライトであるキャンプファイヤーをしました。真っ暗だったので、キャンプファイヤーの火が夜の明かりとなりました。子供達の中には、こんな楽しいアクティビティは初めてなので、キャンプで一番楽しかったと言う子もいました。みんなで火を囲みながら、歌を歌い、踊り、そしてたくさんのお話をしました。そしてさらに盛り上げるために肝試しをしました。近久先生とシルバ先生がお化けに扮して子供達を怖がらせたのですが、面白いことに子供達は全く怖がらず、逆に先生達を追いかけしていました。

一日が終わり、みんな部屋に戻ってお風呂に入り、寝る準備をしました。寝る瞬間まで一日の出来事について話したり笑ったりしている子供達の声がかえっていました。

翌日の最終日は、朝食前にダンスエクササイズ(ズンバダンス)をしました。眠そうなお子もいましたが、音楽が鳴り始めると、体の中にエネルギーがあふれ出し踊り始めていました。みんなが楽しそうに踊っているのを見るのは、本当に嬉しいことでした。たくさん体を動かしたので朝食をよく食べました。次のアクティビティの予定は、スイカ割り、障害物ゲーム、ジップライン、木製滑り台、バドミントン等でした。時間の都合で、いくつかのアクティビティはできませんでしたが、子供達は十分楽しんだようで、みんな満足し喜んでいました。そして表彰式で幕を閉じ、帰路につきました。



皆さんの中には、このキャンプの本質や重要性は何かと思われる方がいらっしゃるかもしれません。このキャンプに参加することで、子供達の成長と自立に大きな影響を与えることができたと考えています。一日中英語を話さなければならないというだけでなく、自分はできるんだとさえ思えば、何だってできるということに気づかせてあげたかったのです。時に、自分自身の新しい発見をするためには、このようなアクティビティが必要となります。このキャンプで子供達は新しい自分を発見することができ、英語の使い方や英語の重要性についても深く感じ取れたことでしょう。



キャンプでは新しいことに挑戦することができるので、それが子供達の自信につながるのだと思います。最初は新しいことを嫌がる子もいますが、友達がやっているのを見て、自分もやってみようというチャレンジし始めます。また子供達は自分の力や知識だけに頼らず、友達の助けやサポートを求める方法を学ぶので、チームワークや協調性が育まれます。

子供達は、友達やチームを助けようとする時や指示をする時に、特にリーダーシップを発揮することができました。また、先生だけでなく仲間を尊重すること、特に全員の長所と短所を認めることも学びました。そして私達も子供達への尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。子供達がこのキャンプでどのように学び、いろいろな状況でどのようにがんばってきたのかを見ることができました。このキャンプは子供達にとって一生大切にできる最高の思い出になったと思います。子供達の素晴らしい経験の一つになったことを嬉しく思います。今年と同じように来年もまた多くの子供達がキャンプに参加してくれることを期待しています。私達も英語を教えるだけでなく、このような素晴らしいキャンプを通して子供達一人一人の成長につながるように、互いに手を取り合ってこの世界をより良いものにしていきましょう。